

## 巻頭言

分子科学研究所は岡崎の2研究所と国立天文台及び核融合科学研究所と共に自然科学研究機構を構成して1年が経ちました。世界に冠たる研究機関として、機構内は勿論のこと機構外の機関とも連携を深めて、基礎学術としての自然科学の発展をもたらす国際的に重要な拠点として更に発展していくために、機構長の指導の下にたゆまぬ努力を続ける必要があります。

本年、分子科学研究所は創設30周年を迎えました。国、分子科学コミュニティの皆様その他の多くの方々のご支援に対する感謝の気持ちを表すために、5月20日(金)に、ささやかながら記念式典・祝賀会を催しました。多数の方々のご参列を頂きましたことに対して、ここに改めて御礼申し上げます。また、若手研究者の支援や国際協力の推進を目指して募金活動を行っておりますが、これに対しましても多方面から心温まるご支援を頂き感謝に耐えません。本年度は、「エクストリーム・フォトニクス」連携融合研究プログラムや、機構内連携としての「分子・物質シミュレーション中核拠点形成」に向けた活動が始まります。また、世界一の920MHz NMRの利用研究も順調に開始されております。分子科学国際共同研究の推進、及びアジア諸国との緊密な協力体制の構築をも目指し、分子科学の発展のみならず、世界における基礎学術の発展に少しでも貢献出来ることを願っております。



一方、法人化に伴う重要な施策として、安全衛生管理室の立ち上げと広報委員会の充実が行われました。健康で安全に研究が遂行できることは当然ながら極めて重要なことでありますし、「技術的応用」を重視する社会の風潮の中で「基礎学術の重要性」を分かり易く説明していく努力もまた怠ってはなりません。それぞれの「室」に任せるだけでなく、職員一同が意識を変えて協力することが肝要です。

例年通り今年も、多くの方々が分子研を転出され、また多くの新しい方々をお迎えしました。昨年12月に分子構造研究系の森田紀夫助教授が福井大学工学部教授として、本年4月には、岡崎統合バイオサイエンスセンターの木下一彦教授が早稲田大学理工学部教授として、理論分子科学研究所の岡本祐幸助教授が名古屋大学大学院理学研究科教授として、分子スケールナノサイエンスセンターの多田博一助教授が大阪大学大学院基礎工学研究科教授として、それぞれ転出されました。また、流動として来て頂いていた分子スケールナノサイエンスセンターの高橋正彦助教授が親元の東北大学多元物質科学研究所に戻られました。分子研在職中における様々な貢献に対して心より感謝の意を表したいと思います。一方、理論分子科学研究所に信定克幸助教授を北海道大学から、電子構造研究系に大島康裕教授を京都大学から、分子構造研究系に小澤岳昌助教授を東京大学から、関連領域研究系に江東林助教授を科学技術振興機構からお迎えしました。分子研での世界一を目指した新しい発展を心より祈っております。これ以外にも、多くの若手研究者の流動があります。

受賞の面でも良い知らせがあります。分子構造研究系の小澤岳昌助教授が文部科学大臣表彰若手科学者賞を、分子制御レーザー開発研究センターの齋川次郎研究員(現東工大博士研究員)、佐藤庸一研究員および平等拓範助教授がレーザー学会進歩賞を、分子スケールナノサイエンスセンターの山田陽一助手が日本薬学会奨励賞を、そして極端紫外光研究施設の堀米利夫技術班長が化学会化学技術有効賞をそれぞれ受賞されました。日頃からの研鑽に敬意を表しお祝いを申し上げますと共に、益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

社会に基礎学術の重要性を説明し、また、その支援に応えていくには、立派な研究成果を上げていくことが何よりも一番重要であります。研鑽に励みましょう。

平成17年5月

中村宏樹